NO.HR222J02

HJ42 ｼﾘｰｽﾞ　通過時間計

取扱説明書

御使用前にこの取り扱い説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
その後、大切に保管し必要なときお読み下さい。

御使用上の注意事項

本製品は精密機器ですので取り扱いには十分御注意ください。

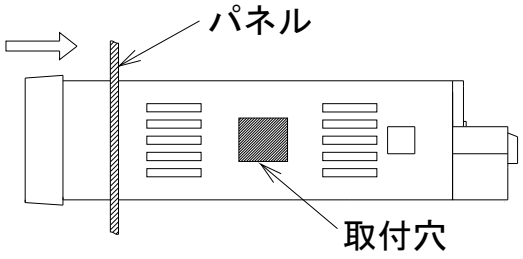
1. 設置場所は下記の場所を避けて下さい。
   - ・直射日光があたる場所や周囲温度が-10～50℃の範囲を越える場所
   - ・塵埃、塩分、鉄粉が多い場所
   - ・相対湿度が 25～85%の範囲を越える場所や温度変化が急激で結露するような場所
   - ・腐食性ｶﾞｽ(特に硝化ｶﾞｽ、ｱﾝﾓﾆｱｶﾞｽなど)や可燃性ｶﾞｽのある場所
   - ・振動、衝撃の激しい場所
   - ・水、油、薬品などの飛来がある場所
   - ・ﾗｼﾞｴｰｼｮﾝﾉｲｽﾞの影響が考えられる場所
2. 各種ｱﾅﾛｸﾞ出力機器との接続について
   ﾉｲｽﾞによる誤動作防止として次の対策をとって下さい。
   - ・入力ﾗｲﾝに 1 芯ｼｰﾙﾄﾞ線を御使用下さい。
   - ・入力ﾗｲﾝは高圧線や動力線との平行配線、同一電線管配線を避け、必ず単独配管とし、できるだけ短く配線して下さい。
3. 供給電源について
   電源電圧は使用可能範囲内で御使用下さい。使用可能範囲外で使用しますと火災・感電・故障の原因となります。
   電源に大きなﾉｲｽﾞがのっている場合には、誤動作の原因になりますのでﾉｲｽﾞｶｯﾄﾄﾗﾝｽなどを御利用下さい。
   また、頻繁な電源の ON/OFF は避けて下さい。

□保証範囲

（1）この製品の保障期間は納入後 1 年間と致します。保障期間内に弊社の責による故障が生じた場合には、その機器の故障部分の修理または交換を行います。
ただし、次に該当する場合にはこの保証の対象範囲から除外させていただきます。
①お客様の不当な取り扱い、または使用による場合
②故障原因が納入品以外の事由による場合
③弊社以外の改造、または修理による場合
④その他、天災・災害・戦争などで弊社の責にない場合
なお、ここでいう保証は納入品単体の保証を意味し納入品の故障により誘発される災害はご容赦いただきます。

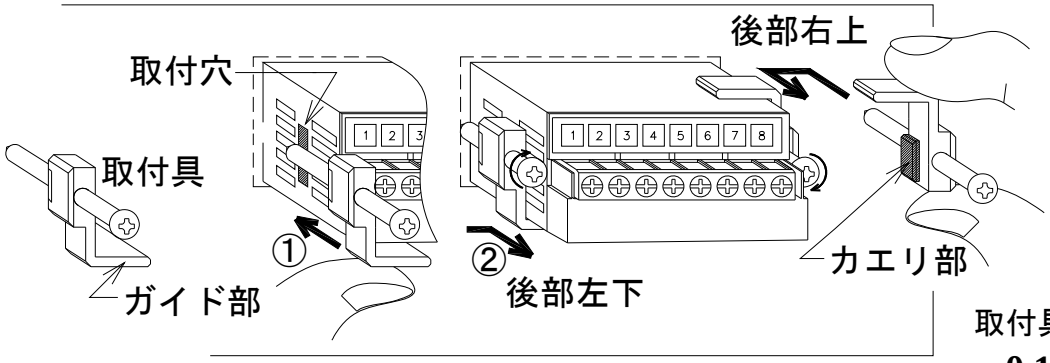
（2）この製品は、人命に関るような状況の下で使用される機器、あるいはシステムに用いられることを目的として設計・製造されたものではありません。

取付方法



本体をパネルに前面から
挿入します。

付属品
・取扱説明書（本書）（1 部）
・取付具（2 個 1 組）
・単位シール（2 種類各 1 枚）



取付具ねじ締付トルク
0.15N.m～0.3N.m

取付具を本体後部右上と左下の 2 箇所にそれぞれ取付けます。
①取付具のガイド部をケース左下コーナーまたは右上コーナーに沿わせながらケースの
取付穴にはめ込みます。

②後方へ引きながらネジを 2 箇所均等に締めつけ
て固定してください。

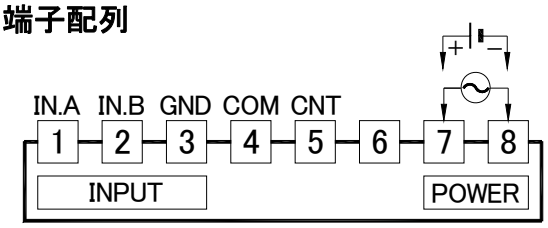
⚠注意
0.3N.m 以上で締めつけるとケースおよび取付具が変形しますので
ご注意ください。

定格仕様

電源電圧	HJ42B□：AC100V　50/60Hz 共用　（許容電圧変動率 90～120%）
	HJ42C□：AC200V　50/60Hz 共用　（許容電圧変動率 90～120%）
	HJ42E□：DC20V～30V　ﾘｯﾌﾟﾙ率 5%以内
絶縁抵抗	入力-電源間 100MΩ 以上 (DC500V)
消費電力	約 4VA(AC ﾀｲﾌﾟ)　約 2W(DC ﾀｲﾌﾟ)
使用周囲温度	-10～50℃(ただし、氷結しないこと)
使用周囲湿度	25～85%RH(ただし、結露しないこと)
外形寸法	24H×48W×91Dmm DIN ｻｲｽﾞ
ﾊﾟﾈﾙｶｯﾄ	22.2H(公差+0.3 -0)×45W(公差+0.6 -0) mm
質量	約 70g

端子配列

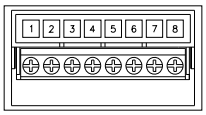
●端子配列



NO	名称		内容
1	IN.A		入力信号
2	IN.B		
3	GND		入力 GND
4	COM		端子⑤のｺﾓﾝ端子　（端子③-④内部接続）
5	CNT		CNT（ｺﾝﾄﾛｰﾙ）端子 端子④と短絡間、ｾﾞﾛ表示（ﾘｾｯﾄ）します。
6	N.C		（注）中継端子として使用しないでください。
7	+	POWER	電源電圧
8	−		

□端子部仕様

ﾋﾟｯﾁ	5mm
接続電線ｻｲｽﾞ	26～14AWG
電線剥離長さ	6～7mm
ﾈｼﾞ	M2.5
締付ﾄﾙｸ	0.5Nm



⚠注意

1. 入力信号のｼｰﾙﾄﾞ線は、必ず、端子③(GND)へ配線して下さい。ｱｰｽﾗｲﾝとは接続しないで下さい。
2. 入力に仕様外の信号入力を加えると破損します。して下さい。ｱｰｽﾗｲﾝとは接続しないで下さい。
3. 電源の投入/遮断は一気に行って下さい。

●入力信号の配線

型番	入力信号	端子①（IN.A）	端子②（IN.B）	端子③（GND）
HJ42□1	電圧出力パルス	○（OUT）		○（0V）
	NPN オープンコレクタ		○（OUT）	○（0V）
	有接点		○	○
HJ42□2	AC タコジェネ	○		○
HJ42□3	マグネチックセンサ	○		○

（注）方形波パルス入力端子は IN.A、IN.B の 2 箇所あります。
センサー仕様に合せて配線して下さい。
なお、IN.A、IN.B 同時に配線しないで下さい。

●入力仕様

ﾀｲﾌﾟ	入力信号	応答速度	入力ﾚﾍﾞﾙ	入力ｲﾝﾋﾟｰﾀﾞﾝｽ
1	方形波ﾊﾟﾙｽ	0.001Hz ～ 100kHz	HI:4-30V LO:0-1.5V ※1	約 10kΩ （端子①） 約 1.5kΩ　※2 （端子②）
2	AC ﾀｺｼﾞｪﾈ	10Hz～ 3kHz	0.8V～80VAC	410KΩ
3	ﾏｸﾞﾈﾁｯｸｾﾝｻ ※3	0.3Hz～ 30kHz	$0.3V^{P-P}$～$12V^{P-P}$	210kΩ

確度:±0.003%rdg±1digit ただし、23℃±5℃とする。
・応答速度は duty50%とする。
※1 応答速度 50kHz 以上については TTL ﾚﾍﾞﾙとする。
※2 端子②の入力で NPN ｵｰﾌﾟﾝｺﾚｸﾀ入力、2 線式ｾﾝｻｰご使用の場合は以下の内容のものをご使用ください。
（ﾒｰﾀ内部は 12V 1.5kΩ で接続されています。）
ON 時:残留電圧 3V 以下 負荷容量 7mA 以上
OFF 時:漏れ電流 2mA 以下
※3 OFF SET 電圧は 0V～7V の範囲内とする。

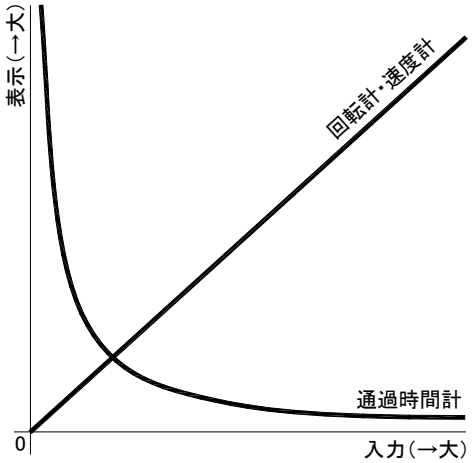
●外部制御端子（端子⑤；CNT 端子）

・負論理入力（無電圧入力）最小 ON 巾：約 40msec　・ｵｰﾌﾟﾝｺﾚｸﾀ(NPN)入力する場合（以下のものをご使用ください。）
・ON 時、約 7.4mA 流れます。内部抵抗 1.5kΩ　ON 時：残留電圧 3V 以下　OFF 時：漏れ電流 1.4mA 以下

機能説明

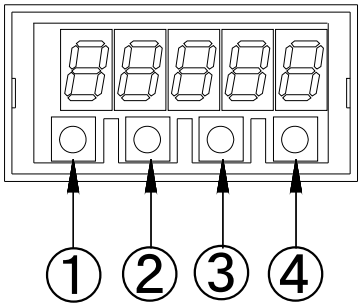
HJ42 シリーズは通過時間計（J）と回転･速度計（r）との機能の切替が可能です。
使用目的に合わせて選択ください。なお、出荷時の設定は通過時間計になっています。

機能	通過時間計（J）	回転計・速度計（r）
動作	表示値は入力信号に反比例。 原理的に停止時は∞（無限大）、高速時は 0（ゼロ）表示に向います。	表示値は入力信号に比例。 停止時は 0（ゼロ）表示する。
単位	「分ー秒」「時ー分」など。	「rpm」「m/min」など。



（備考）
本メータは通過時間計の場合､停止時はゼロ、高速時は 1 になります。
（高速時はゼロにはなりません。）
また、低速時の表示値が 5 桁最大表示を超える入力であってもエラー表示などしません。
なお、低速時の不要に大きい表示はパラメータ 11 のセットゼロをご使用ください。セットゼロは設定した数値以上を強制的にゼロにする機能です。

前面ｷｰ説明　（前面パネル開時）



NO	記号	内容
①	ﾓｰﾄﾞ(MODE)ｷｰ	ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定を行います。 3 秒間押すとﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定状態になります。
②	↑ (UP) ｷｰ	ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定状態で､数値ｱｯﾌﾟさせる場合に用いる。 押し続けるとｱｯﾌﾟ速度が増します。
③	↓(DOWN)ｷｰ	ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定状態で､数値ﾀﾞｳﾝさせる場合に用いる。 押し続けるとﾀﾞｳﾝ速度が増します。
④	ｾｯﾄ(SET)ｷｰ	ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定値の変更を内部ﾒﾓﾘに記憶させます。

※前面パネルは左右の切溝にマイナスドライバなどを差し込み前方に開けてください。

各種設定の操作方法　（前面パネルを開け設定してください。）

●ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定方法

以下の手順は通過時間計の場合ですが回転･速度計の場合もこれに準じます。

手順①→②→の順にﾊﾟﾗﾒｰﾀ 1～Pr まで設定します。

手順	ｷｰ操作	表示および内容
①	MODE 3秒間押す	（NO点滅） ﾊﾟﾗﾒｰﾀ1のNO表示(ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定開始)
②	SET 1回押す	（最下位桁点滅） ﾊﾟﾗﾒｰﾀ1の設定値表示
③	SET 1回押す	（NO点滅） ﾊﾟﾗﾒｰﾀ1設定完了。ﾊﾟﾗﾒｰﾀ2のNO表示。
④	SET 1回押す	（最下位桁点滅） ﾊﾟﾗﾒｰﾀ2の設定値表示
⑤	SET 1回押す	（NO点滅） ﾊﾟﾗﾒｰﾀ2設定完了。ﾊﾟﾗﾒｰﾀ3のNO表示。
⑥	SET 1回押す	（最下位桁点滅） ﾊﾟﾗﾒｰﾀ3の設定値表示
⑦	↑および↓ 任意に変更	<例>12.34に変更 まず数値設定
⑧	SET 1回押す	（小数点点滅）
⑨	↑および↓ 任意に変更	次に小数点移動
⑩	SET 1回押す	（NO点滅） ﾊﾟﾗﾒｰﾀ3設定完了。ﾊﾟﾗﾒｰﾀ4のNO表示。
*	手順⑤～⑩を繰り返し、順次、最終ﾊﾟﾗﾒｰﾀPrまで設定し、設定終了。	

<注 1>左記操作方法の⑧⑨はﾊﾟﾗﾒｰﾀ 3, 4 のみで可能。
数値設定した後、小数点位置を設定します。

○ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定について

1. ﾊﾟﾗﾒｰﾀ NO 表示状態(- - 1 - など)で↑および↓で任意のﾊﾟﾗﾒｰﾀへ移動できます。どのﾊﾟﾗﾒｰﾀでも先送、逆戻ができます。
2. MODE を押すと、どのﾀｲﾐﾝｸﾞでも計測状態に戻ります。
   このとき、SET を押したところまで入力完了となります。
3. 60 秒間設定変更がないと計測状態に戻ります。
   このときも、SET を押したところまで入力完了となります。
4. ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定中であっても計測は行われています。
   SET を押して設定完了後、新しい設定で動作します。
5. ｷｰﾌﾟﾛﾃｸﾄ(ﾊﾟﾗﾒｰﾀ Pr)ON の場合、ﾊﾟﾗﾒｰﾀの設定値を表示しても設定変更は出来ません。設定変更する場合は、まず、ｷｰﾌﾟﾛﾃｸﾄを OFF にした後に設定変更を行ってください。

通過時間計と回転･速度計の機能切替方法　（前面パネルを開け設定してください。）

手順①→②→の順に設定します。

手順	ｷｰ操作	表示および内容
①	MODE 3秒間押す	（NO点滅） ﾊﾟﾗﾒｰﾀ1のNO表示(ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定開始)
②	↓ 3秒間押す	ﾌｧﾝｸｼｮﾝﾊﾟﾗﾒｰﾀの表示
③	SET 1回押す	（最下位桁点滅） 設定値を表示
④	↑および↓ 任意に変更	<例>[r]に変更
⑤	SET 1回押す	計測表示に戻る

ﾌｧﾝｸｼｮﾝﾊﾟﾗﾒｰﾀの設定値は以下の通りです。
なお、出荷時の設定は「J」（通過時間計）となっております。

ﾌｧﾝｸｼｮﾝﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定値	内容
「J」	通過時間計の場合
「r」	回転計・速度計の場合

上記例の場合、手順⑤は、パラメータ設定項目が変わり、回転計・速度計として動作します。

ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ一覧表

表示に関する数値をﾊﾟﾗﾒｰﾀに設定します。前面ｷｰでﾊﾟﾗﾒｰﾀを設定し内部に記憶します。

□J：通過時間計の場合（出荷時は通過時間計に設定されています。）

<table>
<tr><th colspan="2">ﾊﾟﾗﾒｰﾀ名称</th><th>内容説明</th><th>設定範囲</th></tr>
<tr><td>--1-</td><td>入力ｽﾋﾟｰﾄﾞﾌｨﾙﾀ</td><td>使用するｾﾝｻｰなどの最大出力周波数やﾉｲｽﾞの影響に応じて入力ｽﾋﾟｰﾄﾞ（感度）を調整。
詳細は「●入力スピード（パラメータ 1）　の設定に付いて」参照。</td><td>1/2/3/4</td></tr>
<tr><td>--2-</td><td>小数点位置</td><td>表示値およびｺﾝﾊﾟﾚｰﾀ値の小数点位置を設定。
60 進法(時間表示)、10 進法表示を小数点位置で設定します。
<table>
<tr><th>設定値</th><th>表示範囲</th><th>最大表示</th></tr>
<tr><td>99-59</td><td>0-00～99-59</td><td>99 分 59 秒または 99 時間 59 分</td></tr>
<tr><td>9.59.59</td><td>0.00.00～9.59.59</td><td>9 時間 59 分 59 秒</td></tr>
<tr><td>999.59</td><td>999.59</td><td>999 分 59 秒または 999 時間 59 分</td></tr>
<tr><td>※0</td><td>0～99999</td><td>※0.0/0.00/0.000/0.0000 も同様
秒または分または時間
(単に小数点をつけるのみ)</td></tr>
</table></td><td>99-59/9.59.59/999.59
0/0.0/0.00/0.000/0.0000</td></tr>
<tr><td>--3-</td><td>掛算係数(m)</td><td rowspan="3">表示値の換算(ｽｹｰﾘﾝｸﾞ)を行います。
内部演算式：表示値＝$\frac{(m)\times(D)}{入力信号\times(n)}$　※入力信号は周波数(Hz)となります</td><td>0.0001～99999</td></tr>
<tr><td>--4-</td><td>割算係数(n)</td><td>0.0001～99999</td></tr>
<tr><td>--5-</td><td>掛算係数(D)</td><td>1～99999</td></tr>
<tr><td>--6-</td><td>表示周期</td><td>表示値の表示切替時間を設定。単位（秒）。設定した時間の平均値表示となります。</td><td>0.1/0.2/0.5/1/2/3/4/5</td></tr>
<tr><td>--7-</td><td>移動平均</td><td>表示周期ごとの移動平均回数を設定。単位（回）応答速度は遅くなりますが、安定した表示が得られます。なお、1 回の場合は移動平均なし。</td><td>1～10</td></tr>
<tr><td>--8-</td><td>ｾﾞﾛﾘｾｯﾄ時間</td><td>表示値をｾﾞﾛﾘｾｯﾄする時間を設定。(演算待機時間)</td><td>1～1000</td></tr>
<tr><td>--9-</td><td>ゼロ固定</td><td>「5」:5 の倍数表示。
「10」:10 の倍数表示。(最下位桁ｾﾞﾛ固定表示)</td><td>oFF/5/10</td></tr>
<tr><td>-10-</td><td>ﾎｰﾙﾄﾞ機能</td><td>(本仕様に関係なし)「oFF」設定して下さい。</td><td>oFF/1/2/3/4/
11/12/13/14/
21/22/23/24</td></tr>
<tr><td>-11-</td><td>ｾｯﾄｾﾞﾛ</td><td>不必要に大きい数値を表示する事を防ぐため最大表示値を設定します。
設定した数値より大きい表示値をｾﾞﾛ表示します。
設定は 10 進法で設定。(10 分は 600 と設定。)なお、小数点を無視した数値で設定。</td><td>oFF/1～99999</td></tr>
<tr><td>-Pr-</td><td>ｷｰﾌﾟﾛﾃｸﾄ</td><td>ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定およびｵｰﾄｽｹｰﾘﾝｸﾞを禁止します。</td><td>0FF/on</td></tr>
</table>

□r：回転計･速度計の場合

ﾊﾟﾗﾒｰﾀ名称		内容説明	設定範囲
--1-	入力ｽﾋﾟｰﾄﾞﾌｨﾙﾀ	使用するｾﾝｻｰなどの最大出力周波数やﾉｲｽﾞの影響に応じて入力ｽﾋﾟｰﾄﾞ（感度）を調整。 詳細は「●入力スピード（パラメータ 1）　の設定に付いて」参照。	1/2/3/4
--2-	掛算係数(m)	表示値の換算(ｽｹｰﾘﾝｸﾞ)を行います。	0.0001～99999
--3-	掛算係数(k)	内部演算式：表示値＝入力周波数×$\frac{(m)\times(k)}{(n)}$　　※入力周波数の単位は(Hz)。	1～99999
--4-	割算係数(n)		0.0001～99999
--5-	小数点位置	表示値およびｺﾝﾊﾟﾚｰﾀ値の小数点位置を設定。 なお､単に小数点を点灯する位置を指定するものとする。	0/0.0/0.00/0.000 /0.0000
--6-	表示周期	表示値の表示切替時間を設定｡単位（秒）。設定した時間の平均値表示となります。	0.1/0.2/0.5/1/2/3/4/5
--7-	移動平均	表示周期ごとの移動平均回数を設定｡単位（回）応答速度は遅くなりますが、安定した表示が得られます｡なお、1 回の場合は移動平均なし。	1～10
--8-	ｾﾞﾛﾘｾｯﾄ時間	表示値をｾﾞﾛﾘｾｯﾄする時間を設定｡(演算待機時間)	1～1000
--9-	ｾｯﾄｾﾞﾛ	設定した数値以下をｾﾞﾛ表示します｡なお､小数点を無視した数値で設定。	oFF/1～99999
-10-	ﾎｰﾙﾄﾞ機能	(本仕様に関係なし)「oFF」設定して下さい。	oFF/1/2/3/4/ 11/12/13/14/ 21/22/23/24
-11-	予測演算	減速状態で次の入力を予測して徐々に表示値を下げます｡表示値は次のﾊﾟﾙｽをｾﾞﾛﾘｾｯﾄ時間で設定した間､保持せず予測演算しながらｾﾞﾛに近づきます｡(1Hz 以下で動作)	oFF/on
-12-	ゼロ固定	「5」:5 の倍数表示。 「10」:10 の倍数表示。(最下位桁ｾﾞﾛ固定表示) 「100」:100 の倍数表示。(最下位 1,2 桁ｾﾞﾛ固定表示)	oFF/5/10/100
-Pr-	ｷｰﾌﾟﾛﾃｸﾄ	ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定およびｵｰﾄｽｹｰﾘﾝｸﾞを禁止します。	OFF/on

●入力スピード（パラメータ 1）　の設定に付いて

ﾊﾟﾗﾒｰﾀ 1 の設定により最大入力スピードの変更が可能です｡以下の表は設定値と最大入力周波数の関係です。
通常､出荷時の設定（①参照）で計測を行い、計測する最大周波数やノイズなどの影響などで表示値にちらつきがある場合は設定値をこの大小関係（②参照）で変更して下さい。
なお、以下の最大周波数は安定した信号レベルで計測可能な最大周波数です。（最大周波数に巾がありますので目安にして下さい。）

型　式	HJ42□1 (方形波ﾊﾟﾙｽ)	HJ42□2 (AC ﾀｺｼﾞｪﾈ)	HJ42□3 (ﾏｸﾞﾈﾁｯｸｾﾝｻｰ)
ﾊﾟﾗﾒｰﾀ 1＝[1]または[2]	max　30Hz　※	max　30Hz	max　30Hz
ﾊﾟﾗﾒｰﾀ 1＝[3]	max 10kHz	max　3kHz	max 10kHz
ﾊﾟﾗﾒｰﾀ 1＝[4]	max100kHz	max　3kHz	max 30kHz
①出荷時の設定	[3]	[3]	[3]
②大小関係	[4]>[3]>[2]=[1]	[4]=[3]>[2]=[1]	[4]>[3]>[2]=[1]

※接点入力の場合は[1]または[2]を設定してください。

オートスケーリング　(ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定数値がわからない場合および微調整)

□J：通過時間計の場合

ｽｹｰﾘﾝｸﾞに必要な数値はﾊﾟﾗﾒｰﾀ 3～5 で設定します。
ｵｰﾄｽｹｰﾘﾝｸﾞは希望の数値になるようにﾊﾟﾗﾒｰﾀ 3～5 を自動で設定するものです。

・使用条件
1. ｾﾞﾛ表示以外で操作(実際に信号を入力してください。)
2. 100kHz>実行時の入力周波数>0Hz
3. ﾊﾟﾗﾒｰﾀ Pr=oFF

ｽﾄｯﾌﾟｳｫｯﾁなどで測定した通過時間をﾒｰﾀｰに打ち込むだけで、回転数に応じた通過時間を表示します。
まず、信号を入力して 0-00 以外の数値が表示されたらｵｰﾄｽｹｰﾘﾝｸﾞを実行してください。
なお、出荷時のﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定値では、1000Hz 入力で 1-00(1 分 00 秒または 1 時 00 分)表示になります。
(注)0-00 は入力無の状態で、停止以外で 0-00 が表示される場合は、配線および信号発生源(ｾﾝｻｰやｲﾝﾊﾞｰﾀなど)を確認してください。

手順	ｷｰ操作	表示および内容
①		3-48 計測を行い、3-48表示を4-00表示に変更する場合
②	↑ 3秒間押す	(最下位桁点滅) 3-48 4-00に変更
③	↑および↓ 任意に変更	(最下位桁点滅) 4-00 4-00に変更
④	SET 1回押す	4-00 ｵｰﾄｽｹｰﾘﾝｸﾞ完了。計測表示に戻る。

実行後、ﾊﾟﾗﾒｰﾀに以下の値が自動設定されます。

ﾊﾟﾗﾒｰﾀ NO	名称	設定値
--3-	掛算計数: 実行時の入力周波数(Hz)	1440
--4-	割算計数: 「1」を自動設定	1
--5-	掛算計数: 変更した表示値	240

※1. ｽｹｰﾘﾝｸﾞのみ本操作で行えますが、小数点位置などﾊﾟﾗﾒｰﾀ 3～5 以外の項目についてはﾏﾆｭｱﾙで設定して下さい。
※2. ﾊﾟﾗﾒｰﾀ 3 に小数点を含む数値が設定されていた場合は設定されていた小数点位置に従い周波数が設定されます。
ただし、最大 5 桁の範囲内で最下位桁は四捨五入して設定します。

□r：回転計・速度計の場合

ｽｹｰﾘﾝｸﾞに必要な数値はﾊﾟﾗﾒｰﾀ 2～4 で設定します。
ｵｰﾄｽｹｰﾘﾝｸﾞは希望の数値になるようにﾊﾟﾗﾒｰﾀ 2～4 を自動で設定するものです。
例えば、ﾊﾝﾄﾞﾀｺﾒｰﾀなどで測定した速度や回転数をﾒｰﾀｰに打ち込むだけで、希望の数値にｽｹｰﾘﾝｸﾞします。
まず、信号を入力して 0 以外の数値が表示されたらｵｰﾄｽｹｰﾘﾝｸﾞを実行してください。

・使用条件
1. ｾﾞﾛ表示以外で操作(実際に信号を入力してください。)
2. 100kHz>実行時の入力周波数>0Hz
3. ﾊﾟﾗﾒｰﾀ Pr=oFF

手順	ｷｰ操作	表示および内容
①		1440 計測を行い、1440表示を3600表示に変更する場合
②	↑ 3秒間押す	(最下位桁点滅) 1440 3600に変更
③	↑および↓ 任意に変更	(最下位桁点滅) 3600 3600に変更
④	SET 1回押す	3600 ｵｰﾄｽｹｰﾘﾝｸﾞ完了。計測表示に戻る。

実行後、ﾊﾟﾗﾒｰﾀに以下の値が自動設定されます。

ﾊﾟﾗﾒｰﾀ NO	名称	設定値
--2-	掛算計数:「1」を自動設定	1
--3-	掛算計数:変更した表示値	3600
--4-	割算計数:実行時の入力周波数(Hz)	1440

※1. ｽｹｰﾘﾝｸﾞのみ本操作で行えますが、小数点位置などﾊﾟﾗﾒｰﾀ 2～4 以外の項目についてはﾏﾆｭｱﾙで設定して下さい。
※2. ﾊﾟﾗﾒｰﾀ 4 に小数点を含む数値が設定されていた場合は設定されていた小数点位置に従い周波数が設定されます。
ただし、最大 5 桁の範囲内で最下位桁は四捨五入して設定します。

設定例　（機械的な数値を設定する場合）

□J：通過時間計の場合

設定①:
回転部に 360(p/r)のｴﾝｺｰﾀﾞ を取付け通過距離(工程距離)
1m の通過時間を表示する場合。
ただし、ｴﾝｺｰﾀﾞ 取付部の周長 0.2m、計測する場所は変速比
1/100 の場合とする。

NO	設定内容	設定値
--3-	(1 回転当りのﾊﾟﾙｽ数)	360
--4-	1 回転当りの移動距離(m) × (変速比)	0.2 × (1/100)=0.002
--5-	工程距離(m)	1

設定②:
この場合、100rpm で回転した時の周波数は 600Hz (=100÷60×360
周波数は 1 秒当りのﾊﾟﾙｽ数と解釈してください。)で、このときの
通過時間をｽﾄｯﾌﾟｳｫｯﾁで計ると 5 分(300 秒)となった。

NO	設定内容	設定値
--3-	入力周波数(Hz)	600
--4-	(固定値「1」を設定)	1
--5-	通過時間	300

設定①②ともに同じ結果になります。

（例）600Hz 入力の場合、

$$\text{設定①の通過時間}=\frac{(\text{パラメータ３})\times(\text{パラメータ５})}{(\text{Hz})\times(\text{パラメータ４})}=\frac{３６０\times１}{６００\times０．００２}=３００\ (\text{秒})$$

$$\text{設定②の通過時間}=\frac{(\text{パラメータ３})\times(\text{パラメータ５})}{(\text{Hz})\times(\text{パラメータ４})}=\frac{６００\times３００}{６００\times１}=３００\ (\text{秒})$$

※なお、設定②の場合などは特にｵｰﾄｽｹｰﾘﾝｸﾞ を使えば簡単にｽｹｰﾘﾝｸﾞ できます。

□r：回転計･速度計の場合

○ｾﾝｻｰを使用して回転数および周速度を表示する場合

1 回転 200 ﾊﾟﾙｽのｴﾝｺｰﾀﾞ で回転数(rpm)
または速度(m/min)を表示する場合。
ただし、ｴﾝｺｰﾀﾞ 取付部のﾛｰﾗｰ周長 0.24m、回転数
または速度を計測する場所は変速比 3/4 とする。

NO	設定内容	設定値(rpm)	設定値(m/min)
--2-	(1 回転当りの周長 m) × (変速比)	3/4=0.75	3/4 × 0.24=0.18
--3-	60	60	60
--4-	1 回転当りのﾊﾟﾙｽ数	200	200

○ｲﾝﾊﾞｰﾀやﾓｰﾀなどの周波数(Hz)入力の場合

1440Hz 出力時、ﾊﾝﾄﾞﾀｺﾒｰﾀで回転数を計測したところ、現在 1350rpm であった。
なお、現在の周波数がわからない場合は、ﾊﾟﾗﾒｰﾀ 2～4=1 として計測し、表示値が周波数(Hz)
となります。なお、この場合、ｵｰﾄｽｹｰﾘﾝｸﾞ を使えば簡単にｽｹｰﾘﾝｸﾞ できます。

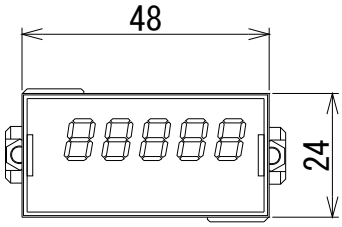
NO	設定内容	設定値
--2-	1	1
--3-	希望値	1350
--4-	入力周波数(Hz)	1440

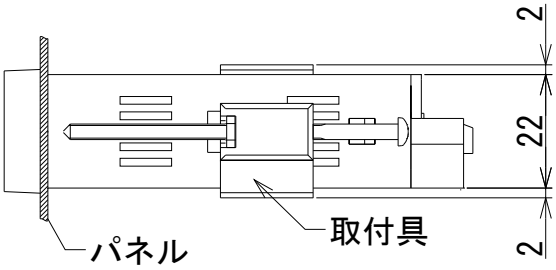
ｴﾗｰ表示

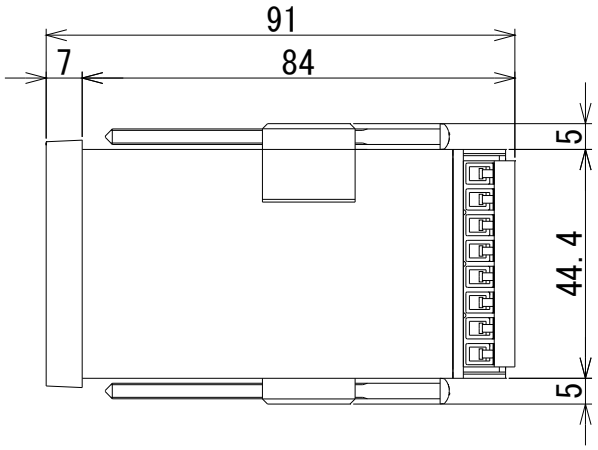
動作中や設定などに異常があれば以下のエラー表示します。

表示	原因	解除方法
(表示値の点滅)	表示範囲以上の表示になる計測結果となった場合。	ﾊﾟﾗﾒｰﾀを設定しなおす。
(異常な表示)	計測が不可状態になっている場合。	自動復帰して初期ｲﾆｼｬﾗｲｽﾞ処理後、計測を行います。 なお、復帰しない場合は電源を再投入して下さい。
Eror	内部記憶異常で設定ﾃﾞｰﾀに異常があった場合。	電源を再投入しｴﾗｰ表示を解除し計測を行う。 なお、ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定値が初期値に書き換えられている可能性がありますのでﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定値の確認を行って下さい。

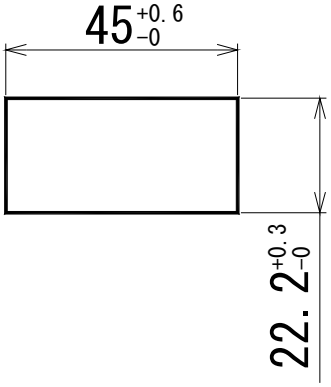
外形寸法図







□パネルカット



型式構成および入力仕様

	①	②
HJ42	E	1

① 電源電圧	
B	AC100V
C	AC200V
E	DC24V

② 入力信号	
1	方形波ﾊﾟﾙｽ
2	ACﾀｺｼﾞｪﾈ
3	ﾏｸﾞﾈﾁｯｸｾﾝｻ
90	その他

商品に関するお問い合わせは
右記へご連絡ください

Henixヘニックス株式会社
口本　社
〒572-0038 大阪府寝屋川市池田新町 1-25
TEL　072-827-9510　FAX　072-827-9445